



広報みすす

3
2023

第491号

美鈴が丘まちづくり協議会

美鈴が丘でいつまでも 暮らしたい(終の棲家)

地区民生委員・児童委員協議会
会長 大石 桂子

高齢化が進み、最近民生委員や町内会長を困らせる事態が多く発生しています。このような事態を起こさないよう、日頃から準備心構えが必要と思われまます。

美鈴が丘は高齢者が40%を超える団地になりました。一人暮らしや高齢者だけの世帯も増えています。コロナ禍で人との関わりが少なく、身近で認知症になる方が増えていると感じています。誰もが「ここで安心して最期まで暮らしたい」との思いを持っていますが、その願いをかなえるためには地域全体で真剣に考える時期が来たのではないのでしょうか？

次の事例を紹介します。
*まごころ弁当をお届けに行ったら応答がな

く、その後何回も電話するも連絡が付きません。新聞がたまっているなどの情報もあり放置できず社協委員・民生委員が警察とも相談し、最終的に親戚の方の了解を取って家の窓を割って家の中に入りました。家の中で動けない本人を発見し何とか事なきを得ることが出来ましたが対応が遅れたらどうなっていたかもしれません。
*家人が帰ってこない

と民生委員に連絡がありました。帰省していた娘さんが帰るとき、どうやら後を追って家を出らしく、数時間しても帰宅せず隣近所を探しても分からないとの内容です。民生委員・協力員、担当のケアマネさんで探し近くの店の中で見つけることが出来ました。
*雪の日の朝、薄着で道路端にうずくまっていた高齢者を見かけた

と民生委員に連絡がありました。駆けつけた時にはその場所には居ず慌てましたが、知り合いの人が自宅に送っていて事なきを得ることが出来ました。
事例に挙げた以外にも「新聞がたまっている、電気が付いていない、連絡が取れない、ゴミ出しの様子が見当たらない」など毎日心配なことが起きています。紹介した事例は最悪の事態は避けることが出来ましたが、たまたま運が良かったと片付けるのではなく誰もが自分自身に起きうることをして安心して暮らせる対策を考えてみましょう。まずは隣近所のお付き合いと支え合いが大切ですが、相談先として民生委員をはじめ町内会長さん社会福祉協議会、地域包括支援センターなどがあります。いつでもご相談ください。個々の状況に添ってプライバシーを守りながら一緒に考えていきます。

編集後記

令和4年度もあと少しになり、我々広報部のメンバーはなんとか無事に6回の発行が出来たことにある意味では安堵を感じています。広報部は常任メンバー6人、町内会からの一般部員20名で構成されています。この1年まだまだコロナの影響が色濃く取材活動もままなりませんでしたが、各方面が主催しているイベントの多くが中止になる事が多く、取材の数が3年前に比べてぐんと少なくなっています。広報みすすの役割は団地でのいろいろな話題や課題、並びに防災・防犯への注意喚起や啓蒙が目的と認識していますが、最近とみに話題に上がってくるのが高齢化です。社会の構造を大きく変えるのが高齢化です。高齢化は日本全体の問題ですが、65歳以上の高齢化率が40%を超えた美鈴が丘で最近起こるいろいろな事態を目の当たりにする時、高齢化の事態の深刻化が実感されます。今月号の記事内容はもとより高齢化の進展が原因での問題点です。1面は一人住まいや認知症の問題、2面3面は町内活動への影響などです。じっくり読んでいただくことを願います。

(広報部長 山本)

★組長・班長さんをお願い！一軒ずつ戸別配布してください！

今後のまちづくり検討部会報告

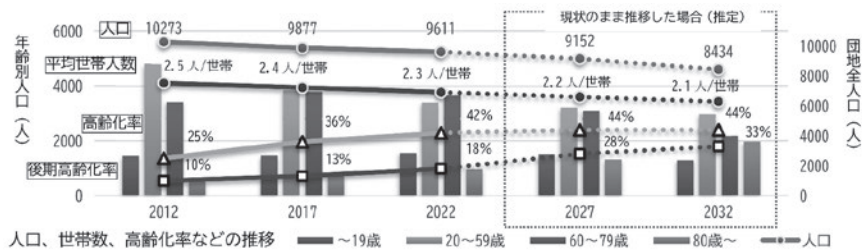
いつまでも、住みやすく
楽しく暮らせるまちをめざして

部会長 木村 隆義

令和2年1月から始まった新型コロナウイルス感染症は町内会活動にも大きな影響を与え、様々な行事が中止を余儀なくされました。こうした状況においてまちづくり協議会役員会において役員の負担軽減、行事の在り方など町内会活動についての改善要望が提議されました。これを受けて令和4年度に臨時役員会として「今後のまちづくり検討部会」を立上げ、年3回改善方法について検討を行いました。

●美鈴が丘団地の現状

美鈴が丘団地は昭和53年に東3丁目、東2丁目が発足して以来、44年が経過し、団地としては成熟期の半ばにさしかかったところです。団地が開発された頃は、30～40代の親世



項目	2012	2022
加入戸数	3,586	3,424
未加入戸数 (未加入率)		176 (5%)
空家戸数 (空家率)		125 (3%)
全世帯数	4,060	4,172
1～2人世帯	2,302	2,738
3人世帯以上	1,764	1,434

町内会の戸数、世帯数

比較すると人口が約6%、町内会加入戸数が約5%減少した一方、平均1.2人世帯が約19%増加しています。ここ10年間で親世代の高齢化が進み、高齢化率が25%から42%、後期高齢化率が10%から18%まで急激に進んでいます。更に後期高齢

代と子ども世代が中心でしたが、20年前くらいから子ども世代が進学、就職により転出し、人口減少が緩やかに始まりました。10年前と

化率は10年後には33%になると推定されています。

現実には団地のあちらこちらで不動産会社の幟や住んでいない住宅が目立ち始めており、高齢化が進むにつれ空き家率や町内会の不加入率が増えることが見込まれています。

一方、最近よくみかけるのが建替え、新し

くモダンな住宅が少しずつ増えています。

この団地で歳をとっても住み続けられるよう、また、新たにこの団地に若い世代が移り住んで来られるよう、現在の状況を見据えた様々な対応が求められています。

●美鈴が丘団地が抱えている課題

◆町内会の運営方法について

美鈴が丘団地では社会福祉、防犯、防災、環境美化、賑わいづくり、青少年対策、広報など様々な活動を行っています。こうした活動は町内会から選出された町内会役員で構成されている防災部、企画部、広報部、社協、防犯組合、体協、青少年協、公衛協などが実施しています。ただ町内会内にこうした活動に負担感があり、今後高齢化に伴い実施方法等の改善が求められています。また、世帯数が

少ない町内会では町内会役員がまわってくる間隔が短く負担が大きいう、また、新たにこの団地に若い世代が移り住んで来られるよう、現在の状況を見据えた様々な対応が求められています。

◆町内会役員の負担について

町内会役員のなり手がいないという意見が多く出されました。町内会役員の半数以上が1年交代のため、経験や情報不足も大きな負担となっています。こうした課題を解消するためには情報共有をフォローするための対策が必須です。

◆情報伝達について

現在他は他の有効な手段がないため、従前からの回覧板、戸別配布のリーフレットで対応しています。当然、情報過多の現代では配布物が多くなる傾向であり、人的負担が益々大きくなっており、伝達方法の改善が望まれています。

◆町内会行事について

美鈴が丘の四大家行事の必要性は感じている

が、実施に際しては住民が参加しやすいものにするなど、限られた財源の中、住民本位の行事を行うことが求められています。

◆高齢化に伴う役員負担について

高齢化に伴い役員員の負担を理由に町内会からの退会が起こっています。高齢者の孤独死の話題がありますが、退会により高齢者の見守りに支障がすることも懸念され、対応が必須です。

◆町内会費以外の負担について

防犯組合費(100円/戸・年)、公衛協(100円/戸・年)、巡回乗合タクシー募金・負担金(100円/戸・年)の徴収方法が各町内会で取扱いが異なっており、一定の基準が必要です。

●美鈴が丘団地の課題に対する対応

◆運営方法の改善

◎まちづくりの運営方針を住民に周知し、

組織等の見直しを検討する。

◎効率的に事業を進めるため、町内会役員の役割等を含めた見直しを検討する。

◎まちづくりをどう実行に移すかを議論するまちづくり協議会

委員会の運営について、会議時間の短縮、

会議方法の改善、住民意見の反映などの改善を検討する。

◆町内会役員の負担軽減

まちづくり協議会と町内会でそれぞれが町内会役員の負担軽減につながる対策を行う。

■まちづくり協議会では以下の対応を行う。

◎まちづくり協議会に係る実務マニュアルの作成(まちづくり協議会の運営に係るもの、寄付金の取扱い、各種行事の役割など)

◎町内会共通な事務に関する実務マニュアルの作成(防犯灯、鳥獣駆除、廃棄物、

道路などの行政側の窓口、有価資源ごみ、引継書の雛形など)

■町内会では以下の対応を行う。

◎役員交代の際に引継書による情報共有を行う。

◎前任者によるフォローアップ体制を検討する。

◎副会長との事務分担を行う。(定例会の副会長の代理出席、配布物の回収の役割分担など)

◎役員の報酬について検討する。(事務経費の一部を負担私用と仕分けが困難な費用/プリンターインク代、携帯使用料など)

◆情報伝達について

◎ガラケーの携帯電話が段階的に廃止され、今後はスマートフォンが主流になるため、スマートフォンを利用した伝達方法を検討する。(簡単アプリによるホームページ

ジの閲覧、ライン、一斉メールなど)

◎操作に慣れていない方については、説明会の実施や回覧板との二重化を検討する。

◎回覧板の配布回数を原則、月2回に制限する。

◎既存の掲示板の活用を検討すると共に、生活に密着しているごみステーションへの掲示板の設置を検討する。

◆町内会行事について

四大行事(夏まつり、敬老会、運動会、とんど)の実施にあたり、負担軽減につながる実施方法を検討する。

今後、行事の必要性、費用などを考慮しながら方向性を検討する。

◆高齢化に伴う役員の負担軽減について

今後高齢者が増加してくるなかで、退会により見守り活動をしなくなる孤独死の問題が発生する。そのため、高齢者が町内会か

らの離脱を防ぐためには、役員の免除基準をつくり高齢者等への負担軽減を図る。

◆町内会費以外の負担について

防犯組合費、公衛協の徴収方法は各町内会によるものとし、まちづくり協議会には年会費千八百円に200円を合算した二千円に統一する。

今後団地のインフラとして重要性が高まる巡回乗合タクシーの負担方法については、当面、町内会ごとの対応とするが、今後の検討課題とする。

●今後のまちづくりの方向について

◆住民の意識の変化

団地創設以来40数年が経過し、住民の少子化、高齢化が進んでいる状況の中で、住民の生活に繋がる町内会運営に様々な課題が生じています。これが住民の価値観の多様化に伴い、町内会のコミュニティ活動の必要性に

対する意識の変化といえます。

◆どのようなまちにしたいのか

今後のまちづくりに対しては様々な意見がありましたが、次世代を見据えた「子育てがしやすいまちづくり」、高齢化が進むことを見据えた「みんなを支え合うまちづくり」を望む意見が多く、今後のまちづくりの方向性を示しています。

◆団地住民との情報共有

今後、更に高齢化が進み、少子化と相まって団地運営は厳しい状況が見込まれています。

◆美鈴神社節分祭

1月28日、3年ぶりに節分祭が執り行われた。まず邪気災厄を祓い開運平和を祈念する追儺の儀などの神事が執り行われ、1年間の無病息災と無事を祈り全員で参拝。続いて美鈴が丘高校弓道部の男女4人が弓矢所役とな

まちづくりの原点は人と人が支えあうことが基本です。美鈴が丘を安心していつまでも暮らせるまちにしてい

くためには、人のつながりを大事にしたコミュニティづくりが不可欠です。そのためには団地住民の意見を把握し、まちづくりの基本的な方針、仕組み、行事などを具現化し、町内会(地域コミュニティ)の

必要性の再認識と団地住民との情報共有が最も必要なことです。こうした団地運営の努力が新たな団地再生につながるものと考えます。

り射矢鳴弦を実演、20m先の的を次々に射抜き、やんやの喝采。

2023.0



モラルハザード防止を考える 大人達の良識の輪を広げよう

道徳や倫理観の欠如について考えさせられる事例が増えてきていることが気にかかって仕方がない。日々の生活の中でルール・マナーを守って暮していくことが、社会生活を送って行く上でとても大切な事と一般的に幼少期から学校や家庭で厳しく教え込まれて来ているはず。スポーツ競技の世界でも皆が同じルールを守って競技するから切磋琢磨し努力する。そこにスポーツの魅力がありルールの意義がある。サッカーワールドカップのカタール大会等で見せた日本人サポーターのマナーのレベルが真の姿と信じていたが、一方で回転寿司チェーン店での傍若無人な振舞いをSNSで拡散させジョークで片付けようとする若者の

姿にはモラル崩壊の危機感を覚える。「法律は最低限の道徳である」と云われているが、法令違反していないからといって周囲のヒンシュクを買ったり、子ども達の目にも「悪い大人」と映るような行為は厳に慎むべき、と考えます。自分さえ良ければ、他の人に少々の迷惑を掛けても構わない、というご都合主義がまかり通っている。美鈴が丘でもモラル崩壊に繋がって行くような事例が散見され、見て見ぬふりをするのは大きな問題である。大人の迷惑行為を子ども達が見て真似をするようになる。学校で教えられる道徳教育は建前で、多少の迷惑行為は許される、と勘違いし「本音と建前」を使い分ける術を身に付けて

行き将来に大きな禍根を残す事になる。目指すのは美鈴が丘のモラルレベルの更なる向上であり、文化水準の向上である。止めよう知らん顔「割れ窓の理論」を念頭に大勢の良識ある町民が知らん顔をせずに声を上げて、モラル崩壊を危機意識を持って防ぎ、長年に亘り諸先輩方が培ってきた良き伝統を次世代に継承していく必要がある。

①分別して正しいゴミ出しルールを守る事。



毎日の生活習慣が反映され、町のモラルレベルのバロメーターになる。併せて、各町内会が力を入れて取り組んでいる有価資源回収促進にも繋がり、気持ちのよい町づくりに直結する。

②バス通りの横着な横断は人身事故に繋がって大変危険。子ども達に見られて恥ずかしい。③フレスタ駐車場での走駐車と郵便局前の迷惑駐車を毎回確認している。放任していると事故になり報道されて美鈴の恥をバラ撒く事になり評判が落ちる。

④車庫前の周囲3m以内は駐車禁止。アイドリングストップも大切な気配り。「お互い様」お陰様の心で気持ち良く暮らそう。



⑤タバコのポイ捨て・犬の糞の放置が未だ無くならない。雨に流されて側溝から河川に広がり環境汚染。糞はタイヤや靴に付着して知らずに家庭内に侵入する。⑥街路表示板・丁目番地表示板が劣化してい

たり破損している所がある。救急搬送の障害になるので気付いたら早急に手配を。⑦声掛け・挨拶を徹底し顔見知りを増やす。町内での風通しが良くなり不審者撃退に繋がる。

「ルール・マナー」を

◆市長表彰

シニアクラブが長年の地域清掃活動に対して2月2日市庁舎にて市長表彰を受賞。



阪井会長

◆まちづくり協議会から感謝状

長年民児協の会長を歴任されていた江島さんが11月末をもって退任されました。



大切にする気持ちの良いまちづくり・安全安心なまちづくりを更に進めて行けば、美鈴が丘の評価は更に高くなり、子育て世代に更に選ばれる町になり賑わいは保たれ資産価値も守られる。

◆こんにちは赤ちゃん④

お誕生おめでとう美鈴に生まれてきてくれてありがとう

小方 湊登くん7/4南2
清水ことはちゃん8/28東4
近松 咲耶ちゃん9/7西4
田村 颯志くん10/16緑2
瀬尾沙智加ちゃん10/14緑2
末森 雅将くん1/3南4



◆おくやみ

1/10 益田サエ子様93西4
2/3 上田 康生様55南4
謹んでご冥福をお祈りします。

広報みすず
第491号
発行 美鈴が丘まちづくり協議会
発行日 令和5(2023)年3月10日